

# GREENVALLEY JOURNAL

グリーンバレージャーナル

vol.  
**16** JULY  
2022

特集

山あいの町で人と成長する  
コワーキングスペース





# 働き方の未来が見える場所、 また進化しました。

開所当時からコンプレックスを知る、竹内グリーンバレー事務局長に過去・現在・未来を聞いてみます。

—「神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス（以降、コンプレックス）」とは、どのような場所ですか？

竹内：コンプレックスは、グリーンバレーが運営するコワーキングスペースです。コワーキングとは、勤務場所を自由に選べる個人事業主や会社員が、場所に縛られず働くワークスタイルです。ここは、そんな方が利用する場所の一つです。コワーキングスペースでは、所属企業や職種が異なる人びとが、同じ場所で働いています。コンプレックスは2013年1月に開所しました。上角地区のブルーベアオフィスを手掛けた、バスアーキテクトの坂東さん、須磨さん、伊藤さんの3人が設計を担当しました。閉鎖されていた元縫製工場跡地を、徳島県・神山町・グリーンバレーの3者が資金を出し合い、改修しました。今でも縫製工場だった頃の名残があります。

—どのような方が利用していますか？

竹内：当日の利用者と契約メンバーがいます。契約メンバーの所属企業はWEBエンジニアをはじめとして、銀行や土建コンサル、医療、化粧品の製造販売、

NPOなど多岐に渡ります。この頃、話題の「神山まるごと高専」設立準備財団の事務局もあります。

—今後、どのような展開を期待していますか？

竹内：開所以来、利用者を増やし続けていたコンプレックスですが、昨今の新型コロナウィルス感染拡大を受けて、ここ2年は閑散とした日も少なくありませんでした。ですが現在は快調で、来館者数も回復しています。総来館者数は21年4月の120名から、22年4月の278名に倍増。また、契約メンバーも10社から20社に増えました。さらに21年、テレワーク交付金を活用し大きく改修をしました。ウッドテラスやカフェカウンター、大型スクリーンなど機能が大幅に増えたことで活用の可能性が大きく広がりました。ようやく本来のコワーキングスペースとしての役割が機能するのでは、という期待があります。異なる立場の人々の交流・コラボレーションが生まれ、そこから新しいタネが生み出されていく。それはきっと、神山だけでなく徳島や日本さえも、楽しく面白いものにしてくれるでしょう。そのようなコラボレーションを生み出

すためには、ただ同じ場所で利用者が働く・作業するというだけでは足りません。コミュニケーションが必要です。そして、のために、後藤・安達のようなコミュニティ・マネージャーの存在があります。彼らによってコンプレックスのみならず、サテライトオフィス企業・地元の企業・職人さんなど神山全体で交流が生まれるような展開を期待しています。

---

竹内 和啓  
NPO グリーンバレー事務局長。



## ブルーベアオフィス

中期滞在者向けの貸オフィス。都市部や海外からのクリエイターに1、2ヵ月貸し出す。滞在時の地域交流や新しい価値の創出が目的。

## バスアーキテクト

2010年から活動する建築ユニット。メンバーは坂東幸輔氏、須磨一清氏、伊藤暁氏、柏原寛氏。神山町をはじめとして全国で空き家再生やまちづくりを行なう。



毎週木曜日はコーヒーデー



BBQ パーティー

# コンプレックスから 見える神山

—コンプレックスの日常はどんな感じですか?

後藤：利用者はそれぞれで仕事を持っていて、基本的に没頭して作業をされています。最近はオンラインワークが盛んなこともあります、マルチスペースでは WEB ミーティングを行っている方もいらっしゃいます。また会議室の稼働率も高く、「ガラスの部屋」はほぼ毎日のように使われています。

安達：ただ仕事をしているだけでなく、利用者同士の交流も盛んです。常連のメンバーさん同士で、休憩の際にお話しされています。コーヒーマシンを導入したこと、コーヒー片手におしゃべりされる姿も見られるようになりました。豆ちよ焙煎所や松葉庵という町内の焙煎所からコーヒー豆を仕入れていて、美味しいと好評です。休日にはたまにイベントを開催しています。直近ではバーベキューを行いました。そこでも会社や業種を超えた交流が生まれています。地方ならではの人の距離の近さを垣間見る瞬間です。

—コンプレックスから見える、神山町はどんなですか？

後藤：人との距離がほどよい町だと思います。コンプレックスの近くの WEEK 神山の神先さんやチーノ農園さんとの関わりからそう思います。コーヒーをハンドドリップで淹れがあるのですが、その器材を神先さんにお借りし

たり、バーベキューの際にチーノ農園さんに場所を提供して頂いたり、それがなんでもないように行われます。そして、そんな関係がコンプレックスの外でも続いている、とても心地がいいです。

安達：何かをしようとしている人が身近に感じられる町です。日々来られるメンバーさんは職種はそれですが、皆さんこれから何かを生み出そうと、前向きに仕事に取り組まれています。メンバーだけでなく町民の方も利用してくださいますが、真剣で楽しげです。きっとこの雰囲気はコンプレックスだからではなくて神山町だからなのではないかと思っています。

—これから、どんなことをしたいですか？

後藤：利用者にとって快適な場所となるように、いろいろなことをしたいです。例えば、コンプレックスの裏の崖下に川が流れているんですが、そこに降りる道をチマチマと作っています。チーノ農園の管理者、りつぼんさんに教えてもらったのですが、とても気持ちいい場所とのことで、そこで仕事ができたらなんだかいいんじゃないかなあ。神山町に感じる魅力は人それだけだと思いますが、ある人にとってコンプレックスが神山町の魅力になるようにしたいです。

安達：町内のサテライトオフィスの方ともっと関わりたいです。コンプレックスの中だけではなく

コンプレックスに常駐し、管理業務を行う後藤・安達に、日々どのようなことを思いながら運営をしているかを聞きました。

く、サテライトオフィスの人とも一緒にできるようなイベントを企画してみたいです。たとえば、大粟山の作品をめぐるアートツアーとか。朝から山を巡り歩いてお昼にお弁当を食べたりしたら楽しそう。私たちがコミュニケーションのきっかけになって、知り合いが増える。そうやってコンプレックスを利用することで、もっと神山町に愛着が湧くような、そんなお手伝いができたいいなって思います。

後藤 涼介

グリーンバー コンプレックス担当。  
大阪府河内長野市出身。2021 年  
に兵庫県神戸市から移住。大学で  
は土木を専攻。



安達 優香

グリーンバー コンプレックス担当。  
兵庫県南あわじ市出身。2022 年 4  
月に神山へ移住。古民家でのシェアハウス生活を楽しんでいる。



WEEK 神山

2015 年にオープンした宿泊施設。築 70 年の古民家を再生した食堂棟、すべての部屋から眼下に鮎喰川をのぞむ宿泊棟からなる。

チーノ農園

コンプレックスに隣接する移住者が経営する農園。6 反の畠で有機野菜などを作り、卵を販売するためにチャボ(現在約 60 羽)を卵から育てている。

コンプレックス

# 居心地のこと

利用者の声をお届けします

## 誰かに会える場所

—コンプレックスに入居したきっかけはなんですか？

人と交流できる場所を探していたから、そして実家の石井町に近かったからです。神山に来る前は、人との交流が楽しくできるんじゃないかと兵庫県尼崎市に住んでいました。ですがコロナ禍になり、ほとんど人と話をしない生活になってしまった。それで、実家の徳島に帰ってきました。でも同年代の人とも関わりたい。活動的な若い人が多くて楽しそうな神山町をいいなと思い、コンプレックスに入りました。

—コンプレックスでは人との交流の機会はありますか？

あります。いろんな人と話せるのが会社のオフィスと違うところですね。会社はフリーアドレス制のオフィスでした。オフィス内のどの席を利用しててもよく、チームでまとまって利用していました。だから同じチーム内では話をする機会も多いのですが、その輪の外の人と話す機会は少ない。同じオフィスの目の前の仕事をしている人が何をしているか全然わからないんです。一方、コンプレックスでは、いつものメンバーや近所の人と話す機会があります。ここでの縁で、さらに他の人と知り合ったりということも感



じています。

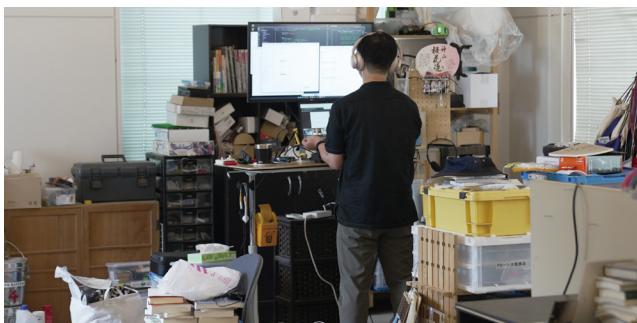
—神山において不便を感じることはありますか？

仕事の話であれば、ほとんど気にていません。コロナ禍が収まったとしても、大阪に戻ることはないです。戻らないのは実家のことも大きいですが。時折、大阪梅田のオフィスに出社します。神山から大阪は遠いですが、朝早くに起きれば10時には出社できます。実はそこまで遠くはないんです。仕事はリモートで完結させられることがこの2年でわかりました。今後、多くの企業は社員確保のため、社員に合わせた働き方の選択肢を増やすでしょう。この追い風で、コンプレックスを使う人が増えてくれれば僕としてもうれしいですね。

近藤 大介

e コマース事業の営業職。徳島県石井町の出身。居住地をどこでも選ぶことができる会社の支援もあり、神山に移住。休日は実家のある石井町にて家業の精肉店経営を手伝う。

## 自由な研究室



—コンプレックスに入居したきっかけはなんですか？

きっかけは以前勤めていた会社のプロジェクトで徳島市内と神山を頻繁に往復していたところにコンプレックスが開所したことでした。それまで徳島市内のオフィスでは机1つ分のスペースで仕事をしていましたが、当時興味を持っていたKinectやVRには広い環境が必要でどうしようか悩んでいたところ、コンプレックスなら「やりたいことが全部できる！」と入居を決めました。現在は神山町にサテライトオフィスを構える株式会社モノサスに勤務していますが、引き続きコンプレックスで仕事をしています。

—町内にある、モノサスのオフィスではなくコンプレックスで仕事をなさっているんですね。コンプレックスでの居心地はどうですか？

いまでは僕の仕事は神山マイカースペースの設備と切り離せなくなっていますので、モノサス入社後もやはりコンプレックスで仕事

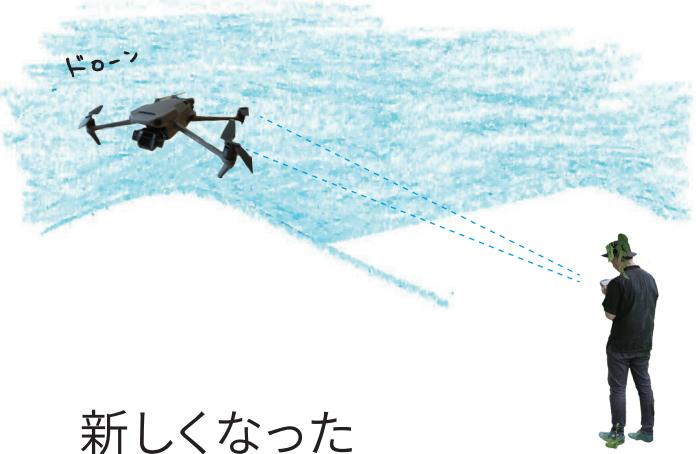
を続けています。21年度の改修では神山マイカースペースの工房も移設していただいたこともあり、コンプレックスで可能な活動が大幅に拡大されました。今後も神山のフィールドを活用して様々なプロジェクトに挑戦していきたいと思っています。さしあたって今は「選択除草」という最先端の草むしりがとても面白く、このプロジェクトではコンプレックスの周囲を在来種の野原に改造しようとしています。

—ほかにもコーダー道場など様々な活動をされていますが、どのような経緯でしょうか？

思い返してみると受け身で始めたことばかりです。神山マイカースペースもあべさやかさんが始めたことに協力する形で参加しました。ドローンを作って遊んでいたらグリーンバレーから小学校の特別授業のお声がけをいただき、授業が話題になったこともあってプログラミングスクールからお誘いをいただきプログラミング教育の実証実験に参加し、そうしたら徳島大学で谷岡先生がコーダー道場を始めていたのでお手伝いで参加しているうちに神山でもスタートを切った形です。やりたいことをやっていたら、いつの間にかこうなっていました。

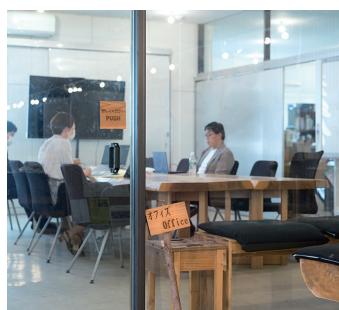
本橋 大輔

ソフトウェアエンジニア。埼玉県出身。大学卒業後、就職で徳島に来たのち、転職を機に神山へ移住。Webプログラマーの仕事をしつつ、神山マイカースペースという活動では地域全体に向けたデジタルファブリケーションを活用したものづくり、CoderDojo（コーダー道場）という活動では子供に向けたデジタル遊び場づくりに取り組む。



# 新しくなった コンプレックスの 見どころ

心地よく仕事ができる環境が  
さらに整ったという、  
コンプレックスの全貌をチェック！



## ① ガラスの部屋

ガラス張りの会議室。「神山杉」を利用した一枚板のテーブルが目を引く。室内の薪ストーブは、神山の寒い冬にはありがたい存在。神山のキーパーソンを見かけるとしたら、ここかも。

## ② ウッドテラス

外の空気や風を感じながら、鳥の囀りを聞きながら仕事ができる。気分を変えたり、WEB会議をしたり、お昼ご飯を食べたり。春は陽気が心地よく、桜も眺めることができる人気のスペース。

## ③ パーテーション

木を格子に組み上げていて棚を自由に取り付けられる。神山メイカースペース（デジタルファブリケーションを活用したものづくりスペース）のメンバーが製作。木材には「神山杉」を利用している。

## ④ スタジオ

防音機能がある部屋。モニター・ミキサー・編集用PCがあり、そのほか撮影に必要な機材（カメラなど）も貸出している。手ぶらで、動画配信や撮影・編集・アップロードまで全てできる。



6月のジャガイモ収穫祭り

移住先を神山に決めたのは 2008 年の夏、翌々年の春に引っ越しして来るまで、ほぼ毎月、勤務地の高松や広島から、森づくりに通っていました。なんか? 山の道具をカッコよく使いこなす、おっちゃんたちが楽しそうにしていたから。それに加えて、神山にモトカラいたひとと、ヨソカラ来たひとが混ざり合い、学校の部活のように学んだり、遊んだりする場があったから。自分もこのまちに住んで、こんなひとたちの仲間になりたいと思いました。

だから今年、そんな場を増やしてみようと、大整地の粟飯原さんの畑に居候する形で、「みんなの畑」を始めてみました。同じ畑を、モトカラのひとと、ヨソカラのひとがいっしょに耕し、種まきから収穫までの作業を楽しみます。ときどき、収穫した野菜を料理して、畑でいっしょに食べます。畑は森に比べると安全だから、小さい子どもがいても大丈夫。野菜作り、してみたいけど、何から始めたらいいかわからない、という方はいっしょにやりましょう!

神山には畑はたくさんあるし、人材も豊富。まちのあちこちで、第2、第3のみんなの畑が始まればいいな。

## メンバーリレー

安達優香

はじめまして、コンプレックスを後藤さんと一緒に担当している安達です。出身地は兵庫県沼島で、4月に神山町へ移り住んできました。神山に来て日は浅いですが、私は雨の日の神山が好きで、満開の桜に霧雨と遠い山に淡いピンクの霧がかかった日はとても美しく、あの景色を忘れられません。雨ふる家の縁側では、日がな一日、本を読んだり、パソコン片手にごろごろしたりして過ごしています。そんな気持ちのいい暮らしの中で、喫緊の課題はシェアハウス宮本邸の虫対策。神山へ来て 1ヶ月、もはやゴキブリでは動じない強い心を覚えました。しかし、家の側の水路に生えていたクレソンはいつの間にやら、食べられないツヤツヤの草に生え替わり、筍は私の背を追い越し化け物のように成長してしまっていました。私が縁側で呑気にしているうちに、季節は春・花盛りから梅雨そして夏・虫の盛りへ、着々と準備を始めていたようです。

と言うことで、今後とも気持ちのいい神山暮らしができるよう、しばらくは害虫対策を頑張りたいです。どうぞこれからよろしくお願ひします。



上：Under Construction Ad Infinitum／ジェイミ・ハンフリーズ 2018  
左下：It's just a matter of Time／エーヴァ・ウェショフスカ 2017  
右下：TIDE／ルース・ペウコヴィッチ 2018

2020 年、2021 年と 2 年続けて延期となっていた神山アーティスト・イン・レジデンスの招聘プログラムは、今年の秋の実施に向けて、現在、事務局とアーティストで来日の準備・手続きを行っています。全てが順調に進み、アーティストが来日できるようになれば、9月1日よりアーティストが来日し、町内での制作活動に入ります。

2020 年の選考会で 100 名以上の応募の中から選ばれた、ジェイミ・ハンフリーズ JaimeHumphreys (英国)、エーヴァ・ウェショフスカ Ewa Wesołowska (ポーランド)、ルース・ペウコヴィッチ Luz Peuscovich (アルゼンチン/スペイン) の 3 名が 2 年越しの念願の来町となります。期間中はお気軽に参加いただけるプログラムも開催予定です。彼らの神山での滞在や出会いからどのような作品が生まれるのか、どうぞお楽しみに！

●オープンアトリエ 10月2日

●展覧会 10月30日 - 11月6日、11月12日 & 13日

●アートツアー 10月29日

※諸事情により各日程に変更が生じる場合がございます。プログラムの詳細については「イン神山 / 神山でアート」ページにてお知らせいたします。

※各アーティストのウェブサイトリンクもあります。



KAIR2022

**表** 令和四年夏至の候。神領大久保の棚田の風景。田に植って間もない稲が、あおあおと日照りを受け返していた。空梅雨のあとに猛暑が続き、今年は深刻な水不足が心配される（生津勝隆）。



GREENVALLEY, INC.

活動継続・発展のために寄付でのご支援をお願いします  
グリーンバレーの活動は、皆様からのご支援によって支えられています。私たちの活動趣旨にご賛同の上、あたたかくご支援をお願いいたします。

<https://www.in-kamiyama.jp/donation-to-greenvalley>



詳細ページ